

風土記の丘の花だより¹⁷⁶

今、そしてこれから見られる植物(2023年3月11日)

暖かくなりました。こんな季節にぴったりな俳句を見つけました。「レンギョウのつぼみ食らうかカワラヒワ」(原文は漢字表記です)。万葉植物園のシナレンギョウのつぼみが膨らんできました。そしてカワラヒワも飛んで来ています。でもまだつぼみを食らっている場面は見えていませんが。



万葉植物園でミツマタが少しずつ開花しています。ジンチョウゲの仲間ですが、花の印象はずいぶん違いますね。これからもっと丸くなって全体が黄色に見えるようになります。ミツマタは漢字で書くと「三又」読んで字のごとく、枝が3つに分かれていますのでこの名がつけました。かつては高級和紙の原料にされ、よく栽培されたようですが、今ではほとんどが観賞用でしょう。昨年、クマノザクラを見た帰り道、龍神の方で見たのがとてもきれいだったのを覚えています。



ホトケノザがきれいに咲いています。山道にはあまり生えない草なので、周辺の田んぼなどには群生していますが、風土記の丘では少ないです。これは本館入り口の大きなクスノキの株のところから西に下りていった左側の空き地で見つけました。よく春の七草の「仏の座」と間違われますが、あれはキク科のコオニタビラコという全く別の植物です。こっちはシソ科です。葉の形が仏様がお座りになっている蓮華に似ていることから名付けられました。



ふきのとうが伸びて、花が咲いてしまいました。こうなったらもう食べられませんね。どうして写真が2枚かということ、雄株と雌株があるからです。左が雄株、右が雌株です。よく見ると全く違いますね。雄株は順番に花が咲きますが、雌株は一斉に咲いています。また、雌株は細くて白い糸みみたいなものがいっぱい出ています。慣れれば一目で違いがわかります。ふきのとうはキク科フキのつぼみです。



ユキヤナギの白い花がチラホラ咲き始めました。これは谷村家住宅で撮影しましたが、谷山家でも咲き始めることでしょう。ユキヤナギはバラ科の植物で、庭木や公園などで普通に見られます。満開になると枝全体が白く見えるほどたくさんの花が咲き、弓なりになります。その様子を雪の重みで垂れ下がったヤナギの枝に見立てて、この名前がつけました。なかなか風情のある名前だと思います。

お待ちかねのハクモクレンは3月8日現在、つぼみはじゅうぶん膨らんでいますが、まだ1輪も咲いていません。次回は紹介できるでしょうか。 松下